



Fresh Concert CMDJ 公式パンフレット



発行：日本音楽舞踊会議／季刊『音楽の世界』

社会福祉法人 緑の風



社会福祉法人緑の風は、知的障害のある人達が
「地域で自分らしく暮らし、地域で働くこと」の
支援を行うために活動をしています

社会福祉法人 緑の風 <https://www.midorinokaze.org>

長坂事業所 : 〒408-0032 山梨県北杜市長坂町大井ヶ森 994-1
障害福祉サービス事業所「緑の風」

Lagom みさと団地 : 〒341-0003 埼玉県三郷市彦成 4-4-15-103

Lagom みさと団地は、重度な知的障害を伴う自閉症、発達障碍の方に特化した支援をする生活介護事業所です。

「Lagom」(ラゴム)とは、スウェーデン語でちょうど良いという意味で、福祉先進国スウェーデンのライフスタイル、考え方の概念です。

施設を利用される方にとって心地よく、それぞれちょうど良い環境を見つけ、住み慣れた地域で暮らしていただきたい、という想いを込めて名付けられました。



社会福祉法人「緑の風」を支援する「麦の会」

後援会「麦の会」は、「緑の風」の活動を支える組織として2003年に発足しました。

会員の皆様のご支援とご協力により、オリジナルカレンダー販売などの活動をし、その収益は「緑の風」への援助金として寄付しています。

1) Fresh Concert CMDJ の歴史

『ジャパン・アズ・ナンバーワン』は 1979 年に米国の社会学者エズラ・ヴォーゲルが表した著書のタイトルの一部ですが、日本および世界におけるベストセラーとなり、日本経済の絶頂期を象徴する言葉となりました。私が日本音楽舞踊会議（以下：音舞会と略称）に入会したのは 1987 年ですが、その頃、我が国の経済は絶頂期を通過しバブル景気に入っており、1991 年をピークにバブル経済は崩壊し、それから長い長い低迷期を迎えます。

経済の低迷は芸術活動にも暗い影を落とします。特に若い音楽家にとって、自分たちが求める音楽活動を行うことが難しくなっていました。「このような時だからこそ、若い人たちに無理なくステージに立てる場を提供したらどうか」という声が会内から発せられるようになりました。

2002 年に私が事務局長に再任されたのを期に、若い音楽家たちのためのコンサート実施を呼びかけ多くの会員の同意を得て実施計画が立てられましたが、それは以下のようなものでした。

1. コンサートはこれから音楽界に巣立って行く若い音楽家たちを対象とする。
2. 毎年継続して開催する。
3. そのコンサートに相応しい名称を会員から募集する。

名称については会員の湯浅玲子氏（音楽学）が提案した「Fresh Concert」が採用され、正式名称は、そこに音舞会の英語略称と開催年を加え「Fresh Concert CMD2003」と決まりました。

また主たるタイトルの下に「～より豊かな音楽の未来をめざして～」という副タイトルを付加しました。CMD は（The **C**ommittee of **M**usic and **D**ance **J**apan）の英語略称ですが、2006 年度の総会で音舞会の英語名は「The Conference of Music and Dance Japan」に変更され、その結果、英語略称は（The **C**onference of **M**usic and **D**ance **J**apan =CMDJ）に変わりました。

しかし、2006 年度のコンサートのチラシ印刷には間に合わず、Fresh Concert でCMDJ の略称と該当するマークが使われるようになったのは、2007 年度からです。

以下の URL を入力すると 2003 年度から現在までの Fresh Concert の全情報を閲覧出来ますが、“Fresh Concert CMDJ”で検索するとブラウザにもよりますが、同じページに辿りつくと思います。

https://www.cmdj-yumeoto.com/concert/Fresh_concert_top.htm

いよいよ第一回の「Fresh Concert CMD2003」が、2003 年 3 月 19 日（水）18：30 に新宿・角筈区民ホールで開催されました。第一回目を開催するホールとして、新宿・角筈区民ホールを選んだ理由は、当時は会にとって総会に継ぐ重要会議であった運営委員会（現：理事会に相当）を、新宿・角筈区民会センター（現：角筈地域センター）の会議室を借りて開催することが多く、角筈区民ホールは馴染みの場所だったからです。その後、開催日は 2005 年、2006 年のみ 3 月下旬でしたが、2007 年以降、4 月前半の開催が定着しました。

その後、使用ホールは 2004 年～2006 年は、めぐろパーシモンホール（小ホール）、2007 年以降はずっと、すみだトリフォニーホール（小ホール）で開催されています。

コンサートのチラシも第一回はワープロで作成した粗末なものでしたが、2008 年頃からはこのコンサート独自のスタイルが確立し、現在に続いています。

またコンサートの評価が次第に高まってきた 2008 年頃からは音楽ジャーナリズムにも情報を送るようになり、その案内文において「我が国の社会・経済環境は依然として厳しい状況が続いておりますが、そのような時代だからこそ、若い人達に無理なくステージに立てる場を提供し、若い才能を発掘育成することも、長い歴史を持つ音楽文化団体として本会が果たすべき社会的、文化的使命の一つと考え、2003 年度から毎年 3 月下旬～4 月上旬に『Fresh concert』を企画し続けてまいりました」と、このコンサートの意義について説明して来ております。

以下に記念すべき 2003 年 3 月 19 日の写真を掲載します。



左：贈られた花スタンド 右：演奏終了後に出演者が全員揃って客席に向かって挨拶した。

花スタンドは毎年実行委員長から贈られておりますが、2008 年度からはステージに飾られるようになりました。また終演後に全員揃って挨拶する行事も第一回からずっと続けておりますが、2006 年度からは、司会者と実行委員長も舞台に上がるようになりました。

2) 座談会とメッセージ&アンケート

Fresh Concert が初めて開催された 2003 年には、参加者を集めて座談会を行い、その内容を月刊『音の世界』に掲載しました。

しかし、座談会は演奏の準備で精神的、時間的に余裕がない演奏会当日の開催は困難なため、その前後の日に行いましたが、都合で参加出来ない出演者も多く、無理がありました。それで、座談会に参加出来ない出演者のことも考え、2004 年からは全員にメッセージを書いてもらうことにしました。

しかし、その後も都合がつく人が少なく、座談会を継続することは、困難になったので、2007 年からは、メッセージ+アンケートとし、実行部が用意した、アンケートの質問項目に出演者が答える形式を採用しました。



2003 年 2 月に行われた出演者による座談会

出演者のコンサートに寄せたメッセージと、質問事項への回答は、演奏会当日来場したお客様に配布するプログラム小冊子に、楽曲解説などとともに、印刷され配られましたが、それがお客様の皆様にとっても好評だったので、その後、現在まで引き継がれています。また、出演者のメッセージと質問項目へのアンケートは、Fresh Concert のWEB サイト「出演者に訊く」という項目で、ずっと掲載しておりますので、各年度の出演者が発した言葉にWEB サイトで接することが出来ます。

また最後となった座談会は、2006 年度の「5）座談会全文とメッセージ」という項目をマウスでクリックすると読むことが出来ます。

3) 2011 年に襲った危機を関係者の協力で切り抜ける

順調に発展して来た Fresh Concert CMDJ ですが、2011 年 3 月 11 日に発生した東日本大震災という未曾有の大災害により、Fresh Concert は開催の危機を迎えます。震災は福島第一原発所に事故をもたらし、その結果、電力供給不足を招く危険が生じ、それを避けるために東京電力管内では計画停電が実施されました。その結果、計画されていたコンサートなど多くの催や、学校の卒業式などまで中止を余儀なくされました。我々の中にも「後々の混乱を避けるため早めに中止を決断した方がよいのでは」という意見もありましたが、「むしろ、こういう時だからこそ人々を元気づけるためにも無理を承知で開催すべきだ」という意見が根強くあり、またホールの



東日本大震災の津波で岩手県大槌町の民宿の屋上に乗り上げた観光船「はまゆり」
(WEB サイト：産経フォットより引用)

関係者も「音楽で人々を元気づけるためにも開催しましょう！」と我々の考えに同意してくれました。また、この年には 1 月中に 10 組の多彩な出演者が集まり、その多くが意欲満々でしたが、幸い計画停電は 3 月下旬で終了し、4 月 8 日にすみだトリフォニー（小）ホールで予定されていたコンサートはなんとか開催出来ました。

そして演奏は熱演続きで、お客様も大いに満足されたようでしたが、終演後の最後の挨拶で、東日本大震災で被災された方々への寄付をお願いし、何人かの出演者に募金箱を持ってロビーに立ってもらいましたが、募金は予想以上に集まり、集まったお金は全額被災地に寄付いたしました。

お客様の温かい拍手、そして演奏した出演者の中には「卒業式も、卒業演奏会も中止になりガッカリしていたが、今日精一杯の演奏をお客様に聴いてもらい、これでやっと卒業した気分になった」と喜んでいる出演者の姿をみて、やはり開催出来て良かったとつくづく思いました。



4) アンサンブルで出演する人たち

一人当たりの参加費が安くなり経費面で有利なアンサンブルでの参加はコンサート開設当初から存在しましたが、このコンサートの存在が社会的に認識されはじめた 2008 年頃からは、増加傾向にあります。ソロ演奏の間に、アンサンブルの演奏が挟まると、コンサートが多彩になり、より盛り上がります。ここでは、出身大学別に、いくつかの例を紹介します。

右の写真は、開催年の 2003 年に出演した武蔵野音楽大学生による二重奏です。譜面台に邪魔されて、顔がよく見えませんが、左：ピアノ、右：クラリネットが演奏を担当した二人です。



下の写真左は、2009 年に出演した、桐朋学園大学のピアノ三重奏のグループ、下の写真右は、2014 年に出演した東京芸術大学のピアノ四重奏のグループです。なお、出演者の名前、演奏曲については各年度のチラシで確認できるので割愛します。



ところで、音楽大学の中で、今まで最も出演実績が多いのは、国立音楽大学ですが、毎年多くの人たちが出演しているので、アンサンブル参加だと一人当たりの参加費が安くなることも知れ渡っており、必然的にアンサンブルでの出演も多いです。右は 2011 年大震災の年の 6 重奏のグループです。楽器も多彩で、フルート、オーボエ、クラリネット、ファゴット、ホルン、ピアノで編成されています。



2007 年には、打楽器の運搬などで苦労しましたが、二台のピアノと二人の打楽器奏者という編成がありました。現代音楽に通じた方なら、この編成をみただけで曲名が想像できるのではないかと思います。この写真は WEB サイトの Fresh Concert のトップページ「Fresh Concert CMDJ について」を飾る写真として採用されており、またこのパンフレットの表紙の写真の一番上にも登場しています。

また金管楽器のアンサンブルやサクソフォーンなど木管楽器のアンサンブルも、長いコンサート

史の中で多くの出演がありました。例えば 2013 年開催時には、金管五重奏のグループと、サクソフォーン四重奏のグループの出演が重なりました。人数が多いアンサンブル参加の場合、椅子や譜面台の用意、ピアノの移動や撤去などステージを整えるのに時間がかかります。それで、原則として演奏前にセッティングのために十分な時間が確保出来るコンサートの開演の直後か、前半と後半のプログラムの間におかれている休憩の直後に演奏してもらいます。2013 年は開演後のトップにサクソフォーン四重奏、後半のプログラムのトップに金管五重奏の演奏を組みました。以下が二つのアンサンブルのステージ写真で、左の写真がサクソフォーン四重奏、右の写真が金管五重奏です。



※このパンフレットにおけるアンサンブルの定義について

通常の音楽演奏においては、ピアノ独奏を除く声楽や多くの器楽作品については、ピアノなどの伴奏を伴うことが多く、一人が無伴奏形態による演奏を行う例は多くはありません。Fresh Concert においては、一人で登録し費用も一人で負担した場合はソロ、二人の名前で登録し、費用を折半している場合はアンサンブル参加として扱っています。例えば 2003 年度における、ピアノとクラリネット作品については、作品名も「ピアノとクラリネットのソナタ」で、二つの楽器の役割が対等ですが、登録も二人の名前で登録され、費用も二人で折半しておりましたので、アンサンブル出演として扱われています。その一方、その年度のチェロの 1 名、声楽の 4 名については、登録者は一人であったため、伴奏付のソロとして扱われており、出演者紹介のページや、チラシの表記もそのように表記されています。

5) 重奏、重唱による出演について



上の写真左は 2017 年度のピアノ連弾。右は 2019 年度の声楽の重唱です。

2 台のピアノを使う重奏は経費もかかり、その一部は出演者の負担になるので、出演例は多くはないのですが、ピアノ連弾による出演例は少なくありません。その一方、意外に少ないのが声楽の重

唱です。オペラ作品などには数多くの重唱の名曲が存在するので惜しい気がしますが、その理由を推測すると、折角出演するのだから重唱だけでなく独唱曲も歌いたいという気持ちが強くあるからではないかと思います。

そこで、2019 年に出演した東京芸大コンビは 15 分の出演枠を確保し、それぞれがアリアを 1 曲ずつ歌い、最後に二人で重唱を歌い、独唱曲と重唱曲をどちらも演奏出来るように工夫しておりました。※募集要項には、演奏時間枠について、声楽は 8 分枠、器楽は 15 分枠と表記されていますが、これはあくまでも原則で、器楽でも 8 分枠の選択は可能ですし、声楽でも 15 分枠の選択は可能です。また、8 分から 15 分の間で中間的な時間設定も可能になっています。声楽の場合は生理的条件を考慮し、8 分枠を原則としていますが、重唱を加えた場合 15 分枠の選択は適切でしょう。

6) 打楽器や珍しい楽器出での出演例

器楽で参加する場合、ピアノ、弦楽器、管楽器は一般的ですが、打楽器はピアノのようにホールに必ず備えられているものではないし、弦・管楽器と異なり持ち運びは困難で、運搬費用をどうするかという問題があり、参加はなかなか難しいのが実状です。しかし、そのような難問を解決して参加した事例もあります。以下に打楽器で参加した例を紹介します。

※なおこの章では、名前も記載させていただきます。

左下の写真は 2016 年度に参加した早稲田大学の梅原優樹君です。この時には、梅原君のお兄さんがご自身の車で楽器を運搬してくれたので出演者は自分の演奏に専念することが出来ました。



右の写真は 2019 度に参加した国立音楽大学：橿山礼華さん（マリンバ）／立石春花さん（クラリネット）の二重奏です。マリンバの運搬費用が問題でしたが、主催者側が半額負担することで実現しました。打楽器での参加は、その実現に向けて難しい課題がありますが、他にも以前紹介した、2007 年度の二台のピアノと二人の打楽器奏者というアンサンブルの参加もありました。

つぎに、非常に珍しい楽器による参加例を紹介しておきましょう。それは、2005 年度の久保智美さんによるオンド・マルトノ（Ondes Martenot）という電子楽器での参加例です。1927 年にモーリス・マルトノ（仏）によって発明されたこの楽器は、キーボードだけではなく、リボンや各種のスイッチなど用いて演奏しますが、神秘的そして官能的な音色を奏でるこの楽器は 20 世紀のフランスの作曲家に愛好され、メシアン、ジョリヴェ、オネゲルなどが、この電子楽器を使った名作を残しております。

久保智美さんは、Fresh Concert に参加した後、員部会の研究会などにも参加し、この楽器を紹介することに努めましたが、2017 年には音舞会のコンサート『様々な音の風景XIV』で拙作「青い詩～オンド・マルトノとピアノのための」を演奏しています。



以下にその演奏をアップロードした YouTube の URL を紹介します。

<https://www.youtube.com/watch?v=iocFR7prRTw>

7) 音楽大学以外の出演者

過去の Fresh Concert の参加者の多くは音楽大学の卒業生、または在校生ですが、音楽大学生ではなく、総合大学などの在校生の参加もありました。その中で特に多いのが早稲田大学の関係者です。例えば前章で紹介した打楽器の梅原優樹君も参加当時は早稲田大学の現役の学生でした。

ここでは、チェロの落合真悟君と菊池柁慶君を紹介します。



まず落合真悟君ですが、2014 年度早稲田大学本庄高等学院 2 年生の時初参加し、その後毎年続けて参加し、2016 年度には早稲田大学の 1 年生、2018 年度には早稲田大学で学ぶ傍ら桐朋学園大学カレッジディプロマコースに在学しています。そして、2020 年には早稲田大学哲学科を卒業し、桐朋学園大学大学院音楽研究科修士課程に在学しチェロ専攻を修了しています。写真左は彼が高校二年で初出演した時の写真、写真中は 2023 年の写真で、現時点では桐朋学園大大学院を修了していますが、彼は Fresh Concert に連続出演し、そこを足場として大きく成長して行った極めて貴重な存在です。

右の写真は、2017 年度、早稲田大学政治経済学部政治学科 3 年在学中に出演した菊池柁慶君（ヴァイオリン）のステージ写真です。彼も早稲田大学本庄高等学院に学んでいますが、音大生顔負けの見事な演奏を披露してくれました。現段階では総合大学からの参加者は多くはないのですが、このパンフレット完成後には、音楽大学だけでなく、音楽の盛んな総合大学などにも配布する予定ですので、今後、一般大学の関係者の参加が増えるかもしれません。



8) CMDJ Opera Concert と Fresh Concert の繋がり

音舞会では、オペラ・コンサートを開催する機会は殆どありませんでした。

Fresh Concert 開設前に開催された最後のオペラ・コンサートは、佐藤光政氏が企画し、1992年6月18日にルーテル市ヶ谷ホールで行われた声楽部会のオペラ・コンサートで『カルメン』を取り上げたのが最後だったと思います。私は会の関係者と、出演者の表情や演技についてお客様が間近に接することが出来る小ホールで初心者でも楽しめる、会独自のスモールオペラを立ち上げようと話し合っていました。Fresh Concert を開設し、声楽部門の出演体験者が増えてきた頃を見計らって開催しようと構想していました。そして2005年11月2日に「愛・憎しみ・血の惨劇」というサブタイトルを付した第一回公演がすみだトリフォニー小ホールで開催されました。

ここでは、出演者の多くが Fresh Concert の出演経験者でしめられていた、2008年度と2012年度の例を紹介します。



2008年度の公演は前半が演奏会形式でアリアコンサート、後半に「ヘンゼルとグレーテル」を小舞台形式で公演しました。児童合唱団が加わったこともあり、超満員の入りでした。上の3点の写真は「ヘンゼルとグレーテル」の舞台写真で、左が祈るヘンゼルとグレーテル、中はお菓子の家を発見した二人、右は魔女の家で、捕らわれたヘンゼルと魔女。演出を担当した、島信子氏が友人の協力を得て制作した手作りの大道具、小道具が舞台に彩りを与えました。ヘンゼル役で出演した湯川亜也子さんは、現在パリに長期留学中で、フランスのオーケストラとも共演しています。



上の写真は2012年に『地獄のオルフェ（天国と地獄）』をハイライト上演した時の写真です。左はオルフェとユリデスの二重唱。左のヴァイオリン奏者はオルフェが奏でる楽器です。右は有名なギャロップを踊りながら歌うシーンです。ヴァイオリンを担当した栗津淳氏は現在、東京シティ・フィルハーモニック管弦楽団の第一ヴァイオリン奏者（フォアシュピーラー）として、オルフェ役の高柳圭氏は東京二期会の中堅テナーとして、ユリデス役の大武彩子さんは、オーストラリアでプロ歌手として活躍中です。なお過去17回公演のチラシのすべてが下のURLで閲覧出来ます。

https://www.cmdj-yumeoto.com/concert/Opera_menu.html

9) 新型コロナによる3年間の中止と、コンサートの復活・再出発

第3章で触れたように、2011年度は東日本大震災の影響を受け開催が危ぶまれましたが、関係者の努力でなんとか切り抜けることが出来ました。ところが、2020年度は、新型コロナ感染拡大の影響を受け、開催直前になって中止を余儀なくされました。この年は参加者募集を始めた頃は、新型コロナの影響は殆どなかったのですが、1月～3月の期間は日を追う毎に感染が急拡大し、非常事態宣言も出され、安全な環境を確保してコンサートを実施することが困難になりました。そこで、出演者の意見を聞き、ホール側とも相談し、中止を決断しました。幻となった2020年度のコンコンサートのチラシは以下のURLで観ることが出来ます。

<https://www.cmdj-yumeoto.com/concert/con-fr20.htm>

さらに、2021、2022年度も開催の準備をし、ホールも確保したのですが、新型コロナの感染は収まらず、中止を余儀なくされ、結局3年間コンサートを休むこととなりました。それは2019年まで16年間休むことなく、コンサートを続けて来た我々には想像出来ないことでしたが、本年(2023年)になりコロナ禍もやや収まって来たので、4年ぶりの開催を決断しました。

2023年度は準備不足で参加者も平常時ほど集まりませんでしたが、過去のFresh Concertの出演者2名が快く友情出演を引き受けてくれ、9組15名の方々がステージに立ちました。また広報活動も遅れたため、お客様は平常年ほど集まりませんでしたが、熱心なお客様が多く、出演者の熱演もあって、客席からは大きな感動の拍手が沸き起こりました。以下に2023年度のコンサートの写真を少し紹介します。

4年ぶりにFresh Concert CMDJの再開が実現しましたが、この再開を新たな出発点として位置づけたいと考えています。



そして、新たなスタートに向けて、このコンサートの内容と、コンサートの目的をより広く社会に紹介するための第一歩として、このパンフレットを作制しました。

皆様の質問、ご意見は、以下のメールアドレスで受付ますのでよろしくお願い致します。

発行：日本音楽舞踊会議／季刊『音楽の世界』編集部 執筆責任：中島 洋一

CMDJ 公式サイト：<https://www.cmdj1962.net/> Email：info@cmdj1962.net

CMDJ 応援サイト：<https://www.cmdj-yumeoto.com/index.htm>

コンサート実行委員長：中島洋一 Email：yoichi_n@wa2.so-net.ne.jp

※通信プロトコル <https://> に対応していない古いWEBブラウザをお使いの方は 先頭の文字列を [https](https://) ではなく、[http](http://) と入力することで、サイトの閲覧ができます。



日本音楽舞踊会議

The Conference of Music and Dance Japan

～入会のお誘い～

～日本音楽舞踊会議とは～

1962年に創立され 2022 年に 60 周年を迎えた私たち日本音楽舞踊会議 (The Conference of Music and Dance Japan) は、ひとつの専門だけではなく、声楽、ピアノ、弦楽、邦楽、作曲、研究、評論、教育、舞踊などさまざまなジャンルの専門家で構成される団体です。専門の異なる様々な人達が専門の垣根を超えて自由に交流し、切磋琢磨をすることが出来るのがこの団体の特色です。

本会では、会で企画するもの、各部会企画のもの、複数の部会で共同企画するものなど様々なコンサート(公演)を開催しており、それらは年に 10 回以上におよびます。また、各会員独自に開催するコンサートも多数ありますので、それらを合わせますと本会関係者が関わるコンサートの数は膨大な数になります。コンサート以外に研究会を開催しており、本会員はもちろん一般の方々も参加できます。さらに楽譜出版を行っており、新しい作品を楽譜にして世に送り出しています。

また他の文化団体と比べた場合の本会の特色は、60 年間発行を続けている機関誌「音楽の世界」(2015 年までは月刊、以降は季刊)を有し、メールマガジン等も発行し、音楽領域に限らず政治、社会、文化などより広い領域の様々な問題について、社会に向かって発言し続けてきていることです。音楽を中心とした芸術活動を右車輪とすれば、言論活動はもう左車輪にあたり、本会の活動はその両輪によって推進されております。

2022 年に創立 60 年を迎えて新たな半世紀を歩む今、本会もまた現代における社会的・文化的役割を深く考察・認識し、自らを成長させながら、フレッシュな精神で更なる飛躍・発展を遂げようとしています。

会員と会友のご案内と募集

日本音楽舞踊会議「会員」

- ・正会員 (理事含む会員 2 名の推薦)
- ・青年会員 (30 歳以下、理事含む会員 2 名の推薦)
- ・準会員 (会員 2 名の推薦)

「会員」は正会員、青年会員、準会員を募集しております。会員と理事の推薦を受けて入会した音楽および関連領域の専門家が所属しています。会員には、

- (1) 会主催公演・会主催事業への最優先参加
- (2) 季刊『音楽の世界』や、会報「Echo」の配本
- (3) 季刊『音楽の世界』への寄稿、広告料割引
- (4) 楽譜出版の権利
- (5) 会員の情報や「会と会員のスケジュール」の掲載が優先して扱われる

など、多くの特典があります。

[入会と特典]

1. ご入会には、正会員および青年会員は会員 2 名(内ひとり理事)の紹介、準会員は会員 2 名の紹介が必要です。
2. 会費は、正会員は年額 22,000 円、青年会員は 11,000 円、準会員は年額 15,000 円です。(会計年度は 1 月 1 日から 12 月 31 日です。)
3. 入会金はございません。
4. 入会後は、季刊『音楽の世界』が月号届くほか、本会主催のほとんどの演奏会に無料で入場することができます。
5. 会員のみに配布される会員名簿や、会の Website に、お名前をお載せします。

日本音楽舞踊会議「会友」

- ・賛助会員
- ・研究員(正研究員)

「会友」は賛助会員(賛助会友)、研究員を募集しております。

賛助会員(賛助会友)については、資格に条件はなく、本会の事業に対して賛同され、支援をいただける方々に、広く門戸を開いており、一般の音楽愛好者、音楽関係の人々とコミュニケーションを持ちたい方など、どなたでも入会出来るようになっています。いずれの会友にも季刊『音楽の世界』が送られます。(研究員に関しては、有料の正研究員のみ)

[入会と特典]

1. 賛助会員は所定の年会費を納めていただくほか、どのような資格制限もなく、また拘束もありません。どなたでもお申し込みいただけます。
2. 賛助会員会費は、個人が 1 口 10,000 円以上、研究員(正研究員)会費は 5,000 円です。
3. 入会金はございません。
4. 入会後は、季刊『音楽の世界』が月号届くほか、本会主催のほとんどの演奏会に無料で入場することができます。
5. 会員のみに配布される会員名簿に、お名前をお載せします。



Since 1962

日本音楽舞踊会議 事務局

(入会申し込み・お問い合わせ)

〒169-0075 東京都新宿区高田馬場 4-1-6 寿美ビル 305

E-mail: info@cmdj1962.net Website: http://cmdj1962.net

Tel/Fax: 03-3369-7496 (執務: 火・金 12:00-17:00)